

# 光鯨会だより

第28号 [令和2年7月]

発行 | 光鯨会  
会長 | 小野 徹郎 (S43)  
本部長 | 井戸田 秀樹 (S58)  
連絡先 | 佐藤 篤司 (H10)  
☎ 052-735-5200  
✉ koukokai@archi.ace.nitech.ac.jp

HP | <http://koukokai.jp/home>

〒466-8555 名古屋市昭和区御器所町 名古屋工業大学 社会工学科 建築・デザイン分野内

## I | 会長挨拶

### □ 会長挨拶 「再び絆を」

小野 徹郎 (S43) 光鯨会会長 / 名古屋工業大学名誉教授



新緑の美しい季節も過ぎ、蒸し暑い季節になりました。光鯨会会員の皆様には、お元気にお過ごしのことと思います。世界中が新型コロナウイルスに襲われ、多くの困難な状況下にあります。人々は家に閉じこもらざるを得ない現実を受け入れています。

経済活動は停滞し人の交流も制限されている中、人との絆は家族という最小単位のつながりまでも断ち切られているような気がします。志村けんさんや岡江久美子さんなどの死に見るようにコロナに感染した人たちに対して、家族すらお見舞いも、野辺の送りさえも出来ない現状があります。思いもかけない厳しい現実を生きていくことが強いられています。私自身も学・協会の委員会や講習会が中止になりました。大学の講義も慣れない遠隔授業でやっています。単なる知識の伝達だけで、気持ちを伝えることが出来なく、もどかしく感じています。

こうした状況を克服するには、いろいろな絆をあらためて確かなものにしていくことではないでしょうか。人間が生活していくには家族の絆、職場の絆、地域の絆など多くの繋がりがが必要です。その絆の一つが青春の一時期を共に過ごした大学の仲間だと思えます。光鯨会も今春に予定していた総会

を中止いたしました。久しぶりに先輩、後輩諸氏のお元気なお顔を拝見し、交友を深め、色々なアドバイスをいただく機会を失いました。寂しいことです。それでも同窓生がそれぞれの分野で頑張っておられるニュースを聞くと、なんとなく嬉しく誇りに思えます。この気持ちこそが見えない糸で結ばれた絆なのでしょう。ただこうした大学の同窓会は、どの大学でもそうであるように昔に比べるとその繋がりが薄れてきています。特に若い世代は自分の仕事や毎日の生活の忙しさにとりまぎれて、そうした繋がりに気持ちを向けることが少ないのが現実です。同窓会は同じ場所で同じ時期を過ごしたという見えない糸で結ばれているだけにもかかわらず、ある時はその絆に助けられ、その絆に心が癒されています。大切にしたいと思えます。

光鯨会の活動は会員皆様の会費で運営されています。昨年は寄付のお願いも、100名を超える会員から浄財をいただきました。厚く御礼申し上げます。しかし会費の納入率は、幾分増加傾向にありますと思うように進んでいません。私としてはなんとか30%は超えたいと思っています。是非、今後とも会費の納入をお願い致します。会員の皆様には十分「3密」にお気をつけいただき、お元気な姿で再会できることを願っています。

## II | 大学は今

### □ 分野長挨拶

北川 啓介 (H8) 名古屋工業大学社会工学教育類長 / 建築・デザイン分野長 / 名古屋工業大学教授



光鯨会会員の皆様方には、常日頃より、母校の学生、同窓生、教員へ、温かいお心遣いと共に深くお世話になっておりますこと、教員を代表してあらためて心より感謝申し上げます。

教員の動向では、38年の長きに渡り、教育、研究、社会貢献の様々な面で先進的な業績の数々と共に本学の建築教室を力強く支えてくださった市之瀬敏勝教授 (S52) が2020年3月末日をもって退職され、翌月より名誉教授とされました。また、2020年4月より建築意匠・建築設計を専門とする近藤哲雄氏 (H11) が特任准教授として着任いたしました。全学の役職員では、学長補佐 (寄付金、同窓会担当) とつくり領域長を河辺伸二教授 (S59)、学長補佐 (ダイバーシティ推進担当) を藤岡伸子教授、高度防災工学センター長を井戸田秀樹教授 (S58)、社会工学教育類長を小生 (H8) が務めております。

新型コロナウイルス感染症の影響で、しばらく全ての授業が在宅でのオンラインとなり、建築・デザイン分野の学生へも少なからず不利益を被ることが多いかとしばらくは心配しておりました。が、学部生も大学院生も教員も、「こういう時だからより望ましい試みを！」とばかり、全学的な動きとは少々異なる能動的な協力体制が日々、具体的に見られております。一般的となったオンライン会議のみならず、多人数がひとつのファイルを同期してのワークショップやディスカッションの実習、建築物の三次元モデリングを同期して学生と教員が同じVR内で

散策しながらの演習のエスキスチェック、海外の大学教員の英語による建築・デザインの講義、学生と教員の授業時間内に限らないビデオ通話など、学生と教員によるカジュアルなコミュニケーションの機会が昨年度よりも大幅に増し、まさに、皆が一体となって動いていることを実感します。更に、まだキャンパスで一度も顔を合わせたことがない学部1年生74名は、頼もしいことに早々にバーベキューの場を立案して、規制が少し緩和された7月上旬に庄内緑地公園で初めて対面し親交を深めておりました。先生も！と声掛けがあり、あわてて八百屋でまとめ買いしたアイスクリーム100個を差し入れてまいりましたところ、「次回はハーゲンダッツで！」とすかさず愛嬌いっぱいにつっこむ18歳もおり、遠慮なく実直に行動する彼ら彼女らに、「そう！その勢いで！」と、以前は同じ立場であった光鯨会のひとりとしてしっかり支えていくべく初心に立ち返った次第です。

皆様方におかれましては、お近くへお越しの際に、是非、気軽に母校を訪ねていただき、引き続き、教員も学生も叱咤激励いただければと存じます。引き続き、何卒、宜しくお願い申し上げます。



新入生が集まったバーベキューでの集合写真

## □新任教員挨拶

### 今枝 良輔 (H24) 名古屋工業大学特任助教



工学部建築・デザイン工学科在学中にザハ・ハディド北京事務所にて勤め、平成24年に本学を卒業後、ニューヨークのライザー+ウメモトへ入社しました。その後平成28年にペンシルベニア大学にて建築学修士を取得し、同学とワシントン大学セントルイス校で非常勤講師を務めた後、レンセラー工科大学の常勤講師として勤務しております。令和元年に本学とレンセラー工科大学とのクロスアポイントメント協定を締結し特任助教として着任いたしました。どうぞ宜しくお願いいたします。

ライザー+ウメモトでは台北ポップミュージックセンターや高雄ポートターミナル、大阪うめきた2期開発など

の大規模設計から、アメリカ東海岸の住宅設計・改築を担当しております。また、個人としても国際設計競技での最優秀賞受賞や、ワールド・トレードセンター美術館での作品展示など、米国と名古屋を拠点に活動しております。

本学では、これまでの国際的な設計・指導経験を生かし、教育及び研究活動を広く展開していこうと考えております。光鮎会につきましても献身できますよう尽力して参ります。浅学非才な身ではございますが、ご指導の程何卒宜しくお願い申し上げます。



ハリウッド国際設計競技最優秀賞

### 近藤 哲雄 (H11) 名古屋工業大学特任准教授



2020年4月より特任准教授として着任いたしました。どうぞよろしく宜しくお願いいたします。わたしは今から20年ほど前、1999年に本学を卒業しました。その後、妹島和世建築設計事務所・SANAAに7年半勤め、現在は自分の事務所で設計活動を行っています。これからは設計活動とともに、教育・研究活動にも一生懸命に取り組んでいきたいと思っております。着任したばかりですが、今年は新型コロナの影響で普段とは違った対応を余儀なくされており、まだ学生たちにも会っていません。今回の件では否応

なしに、世界はひとつながりであること、社会や価値観は簡単に変わってしまうこと等々、多くのことを考えさせられています。建築を考える上でも大変重要なことです。

私は建築のおおきな創造性に惹かれ設計活動を始めました。また、建築について考えることを通してどのように社会に貢献できるかということに常に考えています。早く穏やかな日常に戻って、若い学生たちとまだまだわからないことの多い建築について意欲的に探求したいと思っています。大学での活動を楽しみにしています。まだまだ未熟者ではございますが、ご指導ご鞭撻の程よろしく宜しくお願いいたします。

## □第六回鈴木禎次賞 報告

### 夏目 欣昇 (H5) 名古屋工業大学准教授

創造的かつ機能的に卓越した建築作品・設計者を顕彰することを目的として、2019年度に第六回鈴木禎次賞を実施いたしました。50作品のご応募をいただきました。ゲスト審査員に千葉学先生(建築家・東京大学)をお招きし、慎重な審査の末、7作品を選出いたしました。大賞には大松俊祐氏(㈱竹中工務店)による「アサヒファミリアティズ蛭池寮 楓」が輝きました。鈴木禎次設

計・旧名古屋銀行本店の改修作品が特別賞となりました。卒業生の栗本氏と本田氏が入賞を果たしました。授賞式は2019年10月29日に名古屋工業大学NITech Hallにて行い、受賞者のプレゼンテーション、千葉先生の講演会を多くの学生が聴講いたしました。本事業は13社の協賛企業様のご支援により実施いたしました。関係各位に深く御礼申し上げます。



※上段左から

**大賞** アサヒファミリアティズ蛭池寮 楓  
大松俊祐氏(㈱竹中工務店)

**優秀賞** 早稲田大学37号館 早稲田アリーナ

水越英一郎氏(㈱山下設計)・宮崎俊亮氏(清水建設㈱)

**優秀賞** 三浦工業本社ショールーム

野村直毅氏(㈱竹中工務店)

受賞者集合写真(授賞式にて)

※下段左から

**佳作** 白百合学園ボーリニアンホール

栗本祐輔氏・佐藤理子氏(㈱三菱地所設計)

**佳作** 東京音楽大学中目黒・代官山キャンパス

八里直輝氏(㈱日建設計)・浦波寛弥氏(戸田建設㈱)

**佳作** 千代田区立九段小学校・幼稚園

宇川雅之氏(㈱久米設計)

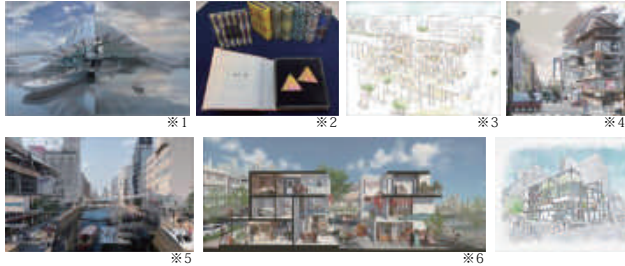
**特別賞** 旧名古屋銀行本店ビル

本田輝明氏・松井夏樹氏(㈱三菱地所設計)

## □学生の活躍

### 夏目 欣昇 (H5) 名古屋工業大学准教授

この一年の学生の活躍を報告いたします。光鮎会賞には杉山莉奈さん(建築系)※1の「水郷暮らしの川湊」が輝きました。学科長賞には中陳佳帆子さん(デザイン系)※2の「自然界の模様を取り入れたアクセサリーのブランディング」が選ばれました。これ以外にも学外の学生コンペ等にて多数の学生が表彰され、名工大生の多彩な力を発揮しております(右表)。また学業優秀者を讃える光鮎会学生奨励賞は20名が受賞しました。

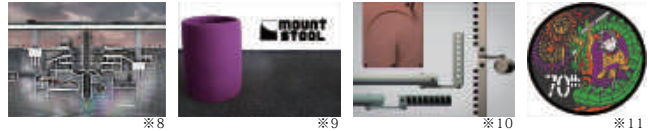


#### ■様々な学生の活躍 (敬称略)

NAGOYA Archi Fes 2020 内藤賞賞 杉山莉奈※1 2019年度日本建築学会設計競技 最優秀賞 中山真由美※3 第7回ヒューリック学生アイデアコンペ 最優秀賞 津田健太・浅井健矢※4 第54回セントラル硝子国際建築設計競技 入選 浅井健矢※5 第13回長谷工住まいのデザインコンペティション 佳作 平山龍太郎※6 JDA中部ブロックデザイン賞 最優秀賞 豊福拓歩※9、同優秀賞 山田碩人※10、同優秀賞 中陳佳帆子※2 刈谷市下水道マンホールふたデザイン 優秀賞 志岐祐也※11 建築新人戦2019 8選 長妻昂佑※7、同 16選 沢田雄基※8、同 100選 大塚竣揮、掛布竣也、加納健一、近藤宏樹、柴田章一郎、岡部裕子、谷俊栄、平山龍太郎、宮川詩布、竹内沙、田上源士 2019年日本建築学会大会(化隆)若手優秀発表賞 建築計画部門 志岐祐也、構造部門(鉄骨構造)吉岡慎平 2019年度日本建築学会東海支部学生優秀学術講演賞 井上裕太、吉岡慎平、中神陽平、鈴木悠介、松本英利 第41回コンクリート工学講演会年次論文奨励賞 井上裕太。他多数

#### ■光鮎会学生奨励賞 受賞者 (敬称略)

学部4年: 百合草美玲、鈴木悠介、柴田湖々、浅井智香、刀根正樹、瀬戸江里花、杉山莉奈 学部3年: 近藤宏樹、掛布竣也、峰早知恵、長谷真彩、松本詩音、北島果林、村上香彩 学部2年: 正村優衣、鈴木智也、三輪雪月、佐橋柚香、鈴木音々、宇都宮来玖



## □卒業生の活躍

### 松原 道彦 (H6) (株)竹中工務店

### 2020年日本建築学会賞(技術)

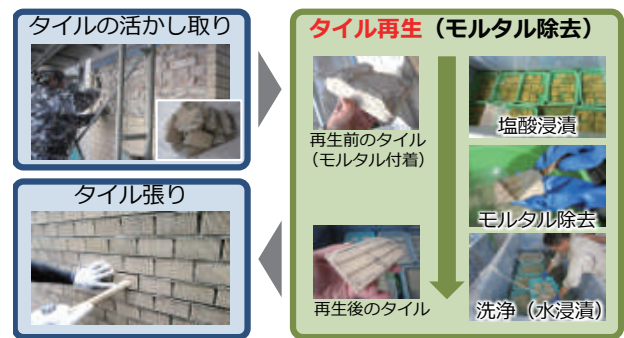


この度、2020年日本建築学会賞(技術)を賜りました。受賞した技術は「セラミックタイル再利用技術の開発と展開」と題し、内外装タイルのリユースを実用化したものです。平成8年に大学院を修了し(株)竹中工務店に入社しました。技術研究所、現場施工管理を経て東京本店技術部に配属され、タイル・防水・塗装等、主に建築仕上工事の施工技術に関する業務に約15年取組んできました。

受賞技術は、既存建物からタイルを活かし取り、裏面に付着したモルタルを酸で溶解して再利用可能にする技術です。タイルは極めて耐久性に優れる材料ですが、そのまま再利用するという技術がなく、使用済タイルは廃棄されるのが通常でした。一方で改修工事では張替え用のタイルを新たに製造しても、既存タイルと色が合わないという課題がありました。また、重要文化財等の歴史的建築物においては、昔の技法で製造されたタイルは貴重な文化

遺産であり、保存利用することが重視されます。本技術による再生タイルを活用することで、これらの課題解決が可能になります。また、ある大学校舎の建替え工事では、歴史ある旧校舎の外壁タイルを新校舎の壁の一部に移設し、関係者の想いを次世代に継承することも実現できました。

本技術が名誉ある受賞に至ったのは、開発メンバーはもとより、多くの関係者にご協力頂いた賜物です。皆様方にあらためて深く感謝致します。



### 坂口 大史 (MH26) 日本福祉大学助教

### 日本建築学会東海支部 日本建築学会東海賞

この度、2020年度日本建築学会東海支部より日本建築学会東海賞を賜りました。日頃からご指導を頂いている皆様に改めて感謝申し上げます。

さて、2015年に現職に着任してあっという間に5年が経ちました。今でも走馬灯のように思い出すのが、日本を飛び出した2008年(学部3年生の時)です。学部3年生までは都市社会工学科に所属しながら、建築系科目も含めて行政政策、マーケティング論、地域計画、生物学、システム工学など興味のある科目をとにかく勉強していました。当時は特に意識していなかったのですが、2008年以降の長きに渡る留学生活や4年生から入れて頂いた北川研究室での数々のプロジェクトや設計活動の際に幅広い分野での学びや知識は大変役に立ちました。

現在は、日本福祉大学(半田C)にて「福祉」と「環境」の両視点から、「ふくし系の建築学科」を目指して教育と研究を行っています。自分の原点であるフィンランドの環境建築の研究から、キャンパス近くにある半田市亀崎地区での地域連携活動、フィリピンでの住居や集落構成の調査、地元企業との商品開発などに取り組んでいます。振り返れば、無駄な回り道をたくさんしたように思えますが、色んな人に支え



左上:コエタロにて、左下:フィリピンでの調査、右上:亀崎での活動、右下:企業との商品開発

て頂きながら一歩ずつ歩いてきたのが良かったのだと思います。最近、色んな所で名工大の先輩方と一緒にさせて頂く機会も増え、改めて名工大の伝統と絆の強さを感じます。またお会いする際は、どうぞよろしくお願ひ致します。

### III | 卒業生は今

#### □本部

#### 魚住 将之 (H13) 名工建設(株)



地元企業で貢献したい思いと、鉄道施設に興味が強かったことから、鉄道工事に定評がある名工建設に入社し、早いもので19年目を迎えようとしています。

学生時代は名駅が現在のタワーズに建て替えられ、私の地元JR稲沢駅も丁度改築された頃ということもあり、街の玄関口として集客力のある駅周辺の新しい発展に大きな魅力を感じていました。今では「エキナカ」という言葉が広く認知されていますが、その言葉が生まれる以前から卒業設計等で自分なりに駅建築の未来像を考えていた当時のことを思い出します。

入社して16年間の現場管理業務を経て、現在は生産設計業務や施工BIM推進を担当し3年目になります。鉄道工事で関わった駅舎は、豊橋、相見、岡崎、大曾根、春日井、垂井駅等がありましたが、どれも昼夜にかけて輸送の安定と旅客の安全を第一に確保することが絶対使命で、絶えず気が抜けない業務ばかりでした。その分の達成感は一般の工事では味わうことの出来ないものがあります。



写真:(左)相見駅



(右)春日井駅

#### 森嶋 源太郎 (H21) 名古屋鉄道(株)

平成23年に大学院を卒業後、名古屋鉄道に入社し、駅員・車掌業務の研修を経て、本配属となり、そこから8年間は名鉄グループ全体の営業企画、連結決算、IR等グループを統括する業務に従事していました。昨年、不動産部門に配属され、保有施設の修繕・再生について計画・実施する業務を担当しています。当社は、駅施設を含め、中部圏を中心に多くの施設を保有しています。規模も築年数も使用用途も様々なので、各々の特性を加味しながら、利用されている方々に満足いただける施設を目指し、日々奮闘しています。

働き方改革やeコマースの拡大により、不動産の在り方は徐々に変化していましたが、コロナの

影響で、多くの方が勤務はテレワーク、飲食は宅配やテイクアウトでという経験をたくさんして、変化スピードは今後格段に上がっていくと予想されます。世の中の動きを素早く察知し取り入れ、魅力的な不動産を提供することで、中部圏の発展の一端を担えるよう業務に励んでいきたいと思えます。



#### 三宅 菜々花 (H29) 名古屋市役所

学部を卒業後、名古屋市役所に入庁し、入庁後3年間、住宅都市局リニア関連・名駅周辺開発推進課に所属しました。2027年のリニア中央新幹線開業(予定)に向けて名古屋駅周辺のまちづくりの推進を図る部署です。多種多様な事業を進める中、私は地下街に関する業務を担当しました。地下街は特殊な建築物であり、わかりやすい地下空間へ再整備するためには、建築基準法などの法規の制約をふまえた改修計画の作成や、公共性が高い一方で民間の建築物であることから関係者との入念な調整が求められるなど、面白さと難しさを感じました。

4年目の現在は、同局交通企画課に異動し、新

たな路面公共交通システムの導入に向け、車両や乗降場のトータルデザインなどの担当をしています。これまでとはまったく異なる業務にはなりますが、様々な視点から名古屋のまちづくりに携わることができることにやりがいを感じています。

今後も、名古屋のまちづくりに貢献できるよう努めていきたいと思えます。



「名古屋駅前広場の再整備プラン(中間とりまとめ)」より抜粋



「SRT構想」より抜粋

## 伊藤 帆奈美 (H23) 大和ハウス工業(株)

平成23年に卒業後、他大学の大学院を経て大和ハウス工業の建築事業部設計部に配属されました。入社以来、名古屋支社に在籍して7年が経過しました。大和ハウスと言うとハウスメーカーのイメージが強いですが、私の所属する建築事業部では、倉庫や老健施設など、基本的には戸建て住宅以外の建物を全て扱っています。設計職も様々な建物を計画するため、日々勉強しながら、より良いものを建てられるよう取り組んでいます。

直近では、羽田空港跡地の整備事業にヘルプとして派遣され、約2ヵ月間 現場に常駐していま

した。研究施設やホテルを含めた大規模複合施設を建設するプロジェクトで、短期間ではありますが大きな仕事に関わることが出来て良い経験となりました。

今後も向上心を持ちながら、楽しく設計をしていきたいと思



羽田空港跡地整備事業(国土交通省HPより)

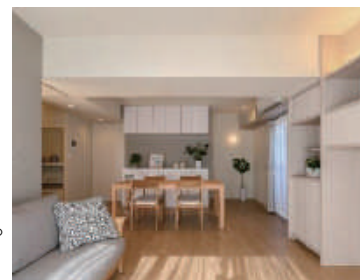
## 水野 真宏 (H22) 空間設計ミズノ



大学を卒業後、名工大OBである甲村健一氏の主催するKEN一級建築士事務所に入社。6年間、住宅・商業施設の設計・工事監理の経験を積んだ後、株式会社ミズノに再就職しました。同社は祖父の代から営んでいる工務店で、愛知県内を中心に設計・施工を請け負っています。入社後、分所として「空間設計ミズノ」を立ち上げ、設計・工事監理の傍ら、時には積算・営業・施工管理業務を行っています。

建築は人との関わりの中で生まれるため、適切

なコミュニケーションがなくては良いものが見つけれません。新型コロナウイルスの影響下では、オンライン打ち合わせ等に対応することが多いですが、建築自体は体感するものですので、施主や職人と現実のギャップが生まれないよう気を付けています。また、生活変化から在宅時間が多くなることが予想されるため、今まで以上に住環境の充実・快適につながる設計・デザインを目指し邁進していこうと思います。



## □アンケート報告

### 松本 健規 (H22) トヨタホーム(株)

1月23日に開催された第14回OB・OG交流会のアンケート結果をご紹介します。在学生を対象に、OB・OG5名から仕事の内容や職場の様子、就活のアドバイス等を紹介し、今後の進路の参考にしてもらうことを目的として毎年開催しているイベントで、今回は約50名よりアンケートを取得しました。

全体の満足度は例年通りの高評価で、「就活に向けて参考になった」「いろいろな話が聞けて面白かった」といった意見が多く、非常に有意義な機会になっているようです。「元々検討していなかった分野の話が聞けて視野が広がった」「直接話が聞ける機会はとても貴重なので毎年開催してほしい」との

声も多くいただき、今後も様々な分野で活躍するOB・OGの皆様と共に、この交流会を継続して実施していきたいと考えています。



## □関東支部

河原(旧姓堀田) 典子 (S59) Kappa研築工房 (河原一級建築士事務所)

昨年10月12日台風19号により、築25年の木造3階建自宅が床上浸水となりました。これまで、浸水被害の復旧改修工事の設計業務経験はありませんでしたが、自宅を含め近隣7軒の復旧工事に関わることになりました。各家庭で、片付け・清掃・被災ゴミ処分を頑張り合い、その間、工務店に工事依頼の打診相談・工程調整をし、1週間後から、消毒・乾燥をするべく、1階床と床上1mの内壁解体を開始し、水をたっぷり含んだ断熱材グラスウールを引っ張り出しました。解体により、7軒中、築25年と20年の6軒に、①雨漏りと蟻害による激しい外壁のダメージ、②耐震性能不足、③45分準耐火仕様不備が発覚。外壁補修、柱梁欠損部の補強、耐震補強工事を同時に実施することになり、直近10年間、600件余りの耐震

診断、100件以上の耐震改修工事経験が活かされました。最小範囲の解体で、有効な耐震補強を施しながら、短期間での復旧工事を実現できました。(1)確認申請手続き用[構造計算書][特記仕様]は存在しても現場は未施工、(2)開口部の防水施工不備、(3)耐火仕様の石こうボードへの水滲入等木造3階建住宅の現状と課題を思い知り、警鐘を鳴らしていきたいと思います。



## □関西支部

田村 衛 (S59) 滋賀県土木交通部建築課

滋賀県庁に就職して以来、建築技術職の行政マンとして公務に勤しみ、定年退職まで残すところ2年となりました。現在は建築課長を拝命し、県有施設の営繕業務などを担当しています。

本県では、4年後の2024年に開催予定の第79回国民スポーツ大会・第24回全国障害者スポーツ大会に向けて、県や市町が競技会場となる各施設の整備に取り組んでいるところです。中でも、主会場となる第1種陸上競技場は、彦根市内にあった県立の陸上競技場を改築するもので、2022年中の完成を目指して去る3月から工事を進めています。

当地は、国宝彦根城に近接し、住宅地や文教施設に隣接しているため、城下町にふさわしい意匠デザインや近隣の居住環境保全のための騒音、照明対策を取り入れな

がら、常に求められる事業費の低減にも努めています。公共施設の意義を堪能できる大規模事業に携わることは、その影響の大きさゆえ苦勞を伴いますが、建築技術職としてのやりがいにはそれに勝っていると思っています。



陸上競技場完成予想図

## □卒業60周年同期会・大学訪問

清水 昭 (S34)

令和元年10月22日(火)～23日(水)、名古屋クラウンホテルにて大学卒業60周年を記念してのクラス会を開催しました。

私たち三四会(昭和34年3月建築学科卒業生同窓会)では会員相互の絆を深めるため、歴代幹事の務めとして卒業後毎年必ず新年会を開催しており、会員有志による旅行会、花見会、ゴルフコンペなども随時開催してきました。そして5年ごとの節目の年度には記念大会を開催し、卒業後45周年大会を浜名湖、50周年は鎌倉、55周年は熱海での開催に続き、今回で9回目の開催となりました。

今回の参加者は存命の同級生28名のうち16名で、前回とほぼ同人数でした。記念写真の撮影後、17名の物故者の冥福を祈って黙祷しました。宴会に入り、お互いの健康と再会を祝しての乾杯に移りました。乾杯の発声は50周年大会(鎌倉)の幹事を務めていただいた渋谷弘二君にお願いし、全員声高らかに唱和しました。

午後6時過ぎから始めた宴会は、山中茂樹君の楽しい司会で始まり、学生時代の話あり、卒業後の出来事、当時の夢、悔恨等在花が咲き、酒量も大いに進み、皆良い気分のところ、カラオケに入りました。

司会も変わって恒川義朗君にお願いしました。懐かしの歌、思い出のメロディーに皆、美声(?)を張り上げ楽しみました。8時過ぎには、皆、部屋に戻り眠りに付

きました。

翌23日、好天にも恵まれ、11名(自由参加)が名古屋市観光バス(メーグル)を利用し名古屋城へ、新装なった本丸御殿等を見学しました。昼食は金シャチ横丁で各自、それぞれ、好きな物を摂りました。そして最後はタクシーに分乗し、名工大へと向かいました。

名工大では夏目先生にご案内を頂き校友会館、講堂(NI Tech Hall)、製図室等を案内して頂き、参加者一同60年の歴史をつくづく感じられた事と思います。



## IV | 光鯨会は今

### □本部だより

#### 中 昭彦 (S58) 前本部幹事長/名古屋市役所



昨年度までの2年間、本部幹事長を務めさせていただきました中 昭彦です。研究室の同期であり現在母校で教授を務める井戸田先生から依頼を受け、幹事長を引き受けることとなりました。幹事会に参加したのは久しぶりで十数年前とは勝手が違い、また幹事長という立場からどう対応したものか判断に迷うこともありましたが、

長く幹事を務めてもらっている方や諸先輩、関係者の方々からのご支援のお陰で務めを果たすことができました。支えていただいた皆さんには心から感謝しています。2年間を振り返ってみますと、まず思い出されるのが見学会です。1年目の春の見学会は、鶴舞公園にある名古屋市公会堂の改修現場、2年目の春の見学会は、日建設計の都心部の模型展示といたしました。どちらの現場

でも光鯨会の会員が活躍されており、また快く見学会を引き受けて頂き大変助かりました。OBの活躍と協力があったの見学会です。

次に有意義だと感じたのは、卒業生と現役学生の交流の機会となっているOBOG交流会です。ゼネコン、設計事務所、官公庁、ハウスメーカーといったジャンル別に若手の卒業生が、自分の業務経験や会社のありようを本音で直接学生に語りかけ、個別に懇談もするこの企画は大変価値あるものだと思います。私が勤務していた名古屋市の女性の建築技師に発表してもらいました。彼女たちにとっても業務を振り返り思いを伝える貴重な経験となったようです。

新型コロナウイルスの影響で、社会経済は一気に厳しいものとなった感がありますが、こうした状況下だからこそ損得を超えた大学の同窓会という交流連携の繋がりがより価値をもつようになると思います。本部幹事は光鯨会が盛り上がるように頑張っています。皆様のご支援ご協力を宜しくお願いいたします。

#### 山 博幹 (S60) 本部幹事長/(株)中部新都市サービス



このたび、中 先輩から本部幹事長のバトンを受けました、昭和60年学部卒の山 博幹です。(株)中部新都市サービスという商業施設の管理・運営をしているUR都市機構の関連会社に勤務しております。

まずは、新型コロナウイルス感染症拡大防止を理由に、今年度の光鯨会総会、懇親会、見学会を中止とさせていただきます。会員各位に対しまして、貴重なOB交流の場を無くしてしまったこと、大変申し訳なく思っております。全国的な対応の中での決定でございますので、ご理解いただければ幸甚に存じます。

国の緊急事態宣言が解除されて以降、少しずつ日常へ向けた動きが出てきております。しかしながら、この間の経済的打撃は大きく、リーマンショックを超えると言

われており、今後倒産件数が大幅に増えるとの見通しもあります。

今回のコロナ禍は明治維新に匹敵する構造変革をもたらすとも言われ、私たちはこれから、アフターコロナの時代を創っていくこととなります。ごく小さな事例ですが、5月の光鯨会幹事会も大学に集まることができず、Web開催といたしました。私自身初めての経験で、おおいに戸惑ったのですが、これが当たり前になりつつあり、これまでのような対面前提の関係性は減っていくと思います。

こうした時代変化の中で生き残り、役割を果たしていくために、私たちは周りをよく観察し、考え、判断し、行動していかなければなりません。光鯨会の繋がりは、これらのアクションにきわめて有用と私は考えています。

これから時代はさらに不透明になっていきますが、光鯨会が皆様のお役に立てるよう、精一杯努めてまいりますので、ご協力・ご支援いただきますよう、どうぞよろしく申し上げます。

### □2019年度年会費納入者、終身会員加入者、寄付者 2019/12/10~2020/7/6にお手配くださった方を記載(敬称略)

**年会費納入者** [S40] 立川剛、小栗鉄夫、[S41] 堀正之、[S43] 後藤和彦、[S45] 三澤紀夫、[S47] 石田進、難波剛、[S48] 久保田安夫、小林真澄、[S51] 武田雄二、[S52] 中山久司、[S54] 麓和善、[S55] 松尾玄之、[S58] 中澤敏樹、[S60] 榎和伸、[S61] 近藤伸一、橋村哲夫、[S62] 池山竜夫、[S63] 竹中康弘、[H3] 石黒智代、杉浦盛基、渡邊孝一、[H4] 岩田佳子、松井友和、[H5] 羽生田剛成、六嶋敬子、[H8] 伊藤芳男、伊藤嘉規、堀口裕司、[H13] 伊藤文乃、[H17] 犬飼高嘉、[H19] 米澤隆、[H23] 山本直樹、[H25] 鈴木翔麻、[H28] 位田健太、佐脇祥郎、[H29] 吉田成克、[H30] 鎌井恵太、田中亜希子、山本菜緒、[H31] 桜田裕斗、[MS43] 日比龍美、[MS46] 神谷清仁、孕石好治、[MH1] 大嶺むつみ、[MH4] 吉田英史、[MH20] 渡辺悠司、[DH22] 濱田晋一、[準会員] 山本雄一 **終身会員加入者** [H14] 野田聡 **寄付納入者** [S23] 松永博、[S26] 清水昭夫、[S35] 倉森治、[S39] 高橋宏之、[S52] 浅野泰樹、[H8] 鈴木晶博

※鯨ボックスへの寄付は随時受け付けております。

## □関東支部だより

河原 弘明 (S59) 関東支部長／大成建設 (株)

### オフィス内マスク着用継続中



前支部長御栄転のため、令和2年度(2020年度)の関東支部長を務めさせていただくことになりました河原と申します。支部役員は何度か務めましたので1年なら何とかかなと思っていましたが、世界中大変な事態になり慌てております。例年通りとはいかないと思いますが、よろしく願いいたします。私は昭和61年(1986年)に小野研究室で大学院を修了して大成建設(株)に入社し、ずっと設計本部ですごしてきました。現在は雑務担当ですね。当社には毎年卒業生が入社します。すぐそばの部署で設計の採用関係をやっており関連資料を見る機会がありますが、最近の後輩の皆さんの優秀さには感心しています。特にインターネット普及後に学生の活動範囲がすばらしく拡大したことが明確に見て取れます。最近は、同じ条件で自分が学生時代に同じことができたか自信が

持てないほど正常進化が進んでいると感じます。

支部の活動としては、昨年の11月に例年通り関東支部総会と懇親会を開催いたしました。井戸田本部長、小野会長、若山先生の他、新入会員を含む総勢55名の会員の皆様にご参加いただきました。懇親会では若山先生から鈴木禎次賞の審査結果の報告があり、当社小林さんが国立競技場プロジェクトの説明を行いました。5回目となったネットワークキャンパスは、新しい試みとして、8月に名古屋工業大学の施設をお借りして名古屋で開催しました。学生の皆さんには好評でしたが新たな課題もありますので、今後も本部と連携して母校と卒業生の皆さんに有益な活動となるように改善を続けたいと思います。今年度は新型ウィルスを考慮し新しい形の活動を模索しております。光鱈会は歴史があり高齢の会員も数多くいらっしゃいますので、くれぐれもご自愛ください。

〒163-0606 新宿区西新宿1-25-1 新宿センタービル  
大成建設(株) (03-3348-1111)  
関東支部長 河原 弘明(S59)、副支部長 末廣 晃一(S58)  
副支部長 鈴木 孝彦(S59)、連絡担当者 国保 潤(H11)

## □関西支部だより

中尾 勝悦 (S59) 関西支部長／中尾総合建築設計事務所 代表



今年の関西は、2025年の関西万博に向けて明るい話題で幕が開けました。同時に関西支部は、新体制の年を迎え、2014年よりずっと事務局を支えてくれている竹内健一さん(H03フジタ)・土方和己さん(H08積水ハウス)・松井孝樹さん(H14清水建設)・山崎航一さん(H25鴻池組)と共に、事務局長に中瀬知幸さん(S59竹中工務店)・副支部長に小山明さん(S59サンヨーホームズコミュニティ)・支部長に私が務めさせて頂くことになりました。

その矢先に今回のコロナ禍です。会場の閉鎖や各自が属する会社の出勤調整のため、4月・6月の定例会を中止しました。その間、事務局は幾度もメールやWeb会議で意見交換を行い、秋の総会に向け準備を行っています。

関西支部では、平成10年度にクラス委員を決め、電話による総会参加勧誘を行ってまいりました。また総会も趣向を凝らして同伴者の参加を促し、毎回60人前後の集まりと成っていました。平成20年度からは幹事会・クラス委員会に卒業生を講師として招き、ミニ講

演会を行ってまいりました。これにより幹事会は定例会と称するようになり、工業会の参加も加わって、ふた月に一度の定例会は、この二年30人前後の人が集い、とても盛況です。一方、秋の支部総会の参加者が50人を下廻る年が多くなり、近年は40人前後と低迷しております。加えて二桁いた同伴者も殆ど参加されなくなりました。光鱈会の魅力について再考する時期に成っているなど総会の度に思っていたところです。

また、名工大のDATA BOOK 2019-2020からは、建築学科の名称が消えました。大手組織に支えて頂いていた事務局も、今回はその所属が皆さん異なります。集まりの自粛を余儀なくされた今、支部規約の見直しなど関西支部の将来を協議する機会が出来たと考えています。そのため定例会を少し縮小し、幹事会を軸として、皆様のご意見を伺い協議する時間を増やそうと思っています。会員の一層の親睦を図る為、ご協力をお願いいたします。

〒540-0026 大阪市中央区内本町4-1-13  
(株)竹中工務店大阪本店(090-3166-8456)  
関西支部長 中尾 勝悦(S59)、副支部長 小山 明(S59)、  
事務局長(連絡担当者) 中瀬 知幸(S59)